

街なか集客施設の整備について（姫路市中心市街地活性化基本計画に対する意見より抜粋）

（１）世界文化遺産 姫路城等と一体化したコンベンションセンターの整備について

街の賑わい創出のための施設整備として、コンベンションセンターの整備を提案する。
世界文化遺産 姫路城や好古園と一体化した2,500人規模の宿泊機能付き国際コンベンションセンターを整備することによって、世界中からコンベンションが誘致でき、中心市街地活性化につながるものとする。

（２）観光客対応施設の整備について

現在、大型観光バスに対応した食事・土産物購入用施設が中核区域内になく、姫路城登閣前後に他所で済ましてしまう場合が多いと感じている。このことが、姫路を通過観光地にしている一因であるとする。世界文化遺産 姫路城周辺にある程度の収容規模をもった食事や土産物が購入できる施設の整備が必要である。

については、前述の施設整備、もしくは、整備誘導を講じられるよう提案する。

また、世界文化遺産 姫路城がミシュランから三ツ星評価された成果かと推測するが、フランス人を中心に外国人観光客が増えているように思う。しかし、当市内、特に、中核区域において、外国人観光客向けの宿泊施設が不足しており、宿泊希望者を市外に逃がしていると仄聞する。

については、街なかに外国人向け宿泊施設の整備を促進するよう提案する。

（３）姫路城文化館（仮称）の整備について

姫路城に来られる方は、当然のことながら、姫路城に関心を持っていると思われる。しかし、現在、姫路城に関する知識欲、学習欲を満たす万人向けの施設がない。このような施設を通じて姫路城について学ぶことにより、市民は姫路城により愛着を持ち、来街者は姫路ファン、リピーターになっていく。

については、姫路城周辺に、姫路城について知り、学び、体験できる施設の整備を提案する。なお、整備候補地として、姫路警察署跡地が適地ではないかと考える。

（４）街なか案内所の整備について

観光客を感動させ、姫路のファンになっていただくためには、市民がおもてなしの心を持つことが必要であるとする。その上で、観光客や来街者に案内サービスを提供すれば、一気に姫路ファンが増加するのではと期待している。

については、ある一定レベルの研修を受けたアドバイザーが配置された街なか案内所が点在するようになることが望ましいと考える。

そこで、街なか案内所制度の創設、整備促進に向け、（社）姫路観光コンベンションビューローにおいて取り組むことを提案する。

(5) 街なかトイレ・休憩所等の整備について

基本計画基礎調査報告書において、中心市街地来街者がもっとも整備を望んでいた休憩所と公衆トイレについても、姫路まちづくり推進機構（仮称）において検討した上で整備するよう提案する。

(6) 賑わい交流施設の整備について

姫路商工会議所では、新たな賑わい交流拠点として観光客・市民の憩いの場所として集客を図り、中心市街地における賑わい創出機能を強化するため、街の駅を建て替え、播磨地域の地場産品・伝統文化・イベント情報を展示するスペース、観光客が一休みできるスペース、地域住民の交流できるスペース、飲食・物販スペース等を整備することを計画する予定である。

については、基本計画への記載とともに整備に向けた支援を要望する。

以 上